

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2026 年 9 月 16 日

学部・学科名 世界教養学科

担当教員氏名 ヴァミューレン服部美香

1. 区分	語学研修
2. プログラム名称	世界教養学科 春期シドニー研修
3. 渡航先国名	オーストラリア
4. 派遣期間	2026 年 2 月 13 日（金）～2026 年 3 月 18 日（水） 34 日間
5. 派遣先教育機関名	マッコーリー大学
6. 参加学生数	15 名
7. 派遣目的	授業で英語を学ぶとともに、ホームステイプログラムなどで多文化に触れる。英語文化圏で生活をする。
8. 派遣内容	様々な国・地域の学生とともに、習熟度別編成クラスで英語の 4 技能を伸ばし、3 週間にわたり学部の授業を聴講する機会（The Human Story, Australian Politics in a Global Context, Introducing Social Science など 19 クラス）もある。さらに、マッコーリー大学の学生と交流するセッションも用意されている。Food Bank NSW&ACT で現地の人たちと共にボランティア活動も行う。
9. 成果	研修中は多様な文化背景を持つ家庭にホームステイをし、プログラムに取り組んだ。 語学学習の絶好の機会となったことはもちろん、様々な経験を通して、視野を広がるきっかけになったようである。今後の学習・学生生活を有意義なものにする内容に溢れた研修となったことは帰国後のアンケート・レポートにもあらわれている。 研修後、さらに長期留学をめざし、TOEFL ITP の勉強に励む学生もいる。学部授業聴講により、留学後のイメージがわくとの感想が多い。
10. 備考	

以上

世界教養学科 春期シドニー研修に参加して

25051020 大澄 玲奈 (2025 年度参加)

私がオーストラリア研修で1番強く感じた事は多様性である。オーストラリアに来るまでは、オーストラリアには多くの人がイメージする欧米よりの顔つきのオーストラリア人ばかりが暮らしていると思っていたが、いざ来てみると、中国人やベトナム人イスラエルから来た人など、様々な国籍の方が暮らしていることがわかった。また話されている言語も英語だけではなく、暮らしている人の母国語が多く飛び交っていると感じた。そして、マルディグラパレードでは性別、年齢を超えた様々な人々が同じチームになって自らの魅力をそれぞれの形でパフォーマンスしていた。これはおそらく、日本では絶対に見ることの出来ないパレードであり、このパレードのような考え方がもっと世界に広がっていくことを期待したいと強く感じた。

また、今回の研修で強く感じたことの一つに、オーストラリアの人々の温かさがある。私はホームステイを通してホストファミリーと生活を共にし、日常の中で多くの優しさに触れることができた。例えば、私の拙い英語にも根気強く耳を傾けてくれたり、文化の違いについて丁寧に教えてくれたりと、常に相手を思いやる姿勢が印象的であった。こうした経験から、人と人との関係において大切なのは言語の上手さだけではなく、相手を理解しようとする気持ちであると実感した。ただ、もっと上手に英語を話したり、聞いたりすることができれば会話が弾んだのかもしれないと思うと、自分の英語を上達させる事はやはり大切だと思う。

さらに、現地でできた友人たちとの交流も非常に心に残っている。放課後や休日に一緒に過ごした後、彼らは必ず電車の改札まで見送りに来てくれた。そして、別れた後には「無事に家に着いたら連絡してね」と声をかけてくれることが多く、その気遣いに何度も驚かされた。最初は単純に優しい人たちだと思っていたが、なぜここまで気にかけてくれるのかを考えたとき、日本との治安の違いが関係しているのではないかと思うようになった。日本は比較的安全な国であり、一人で帰宅することに対する不安が少ないが、海外では状況が異なる場合もある。そのため、相手の安全を気遣う行動が自然と身についているのではないかと感じた。

このような経験を通して、私は「優しさ」の形は国や文化によって異なるが、その根底にあるのは相手を大切に思う気持ちであることを学んだ。また、日本にいと当たり前だと感じていた安全な環境も、世界的に見れば決して当然のものではないということに気づくことができた。だからこそ、自分自身も周囲の人に対して思いやりを持って接することや、状況に応じて相手の立場を考えた行動をとることの重要性を改めて感じた。

今回のオーストラリア研修では、多様性だけでなく、人々の温かさや文化の違いから生まれる価値観の違いについても深く学ぶことができた。これらの経験は今後の自分の考え方や行動に大きな影響を与えるものであり、この学びを今後の生活にも活かしていきたいと考えている。また、この研修に参加したことで、自分の英語能力を実感することができた。何ができないのかがはっきりとわかったため、これからの英語学習につなげていきたいと思った。この研修で学んだ英語を忘れずに、しっかりと頭に入れておきながら、これからの英語学習を続けていこうと思う。



世界教養学科 春期シドニー研修に参加して

24051003 飯沼結乃（2025 年度参加）

私は今回のシドニー研修を通してたくさんのことを学びました。まず今回の一ヶ月という研修期間は私にとって人生で最長の海外生活でした。今までは旅行という形で数日間の滞在だったため今回のように実際に暮らしをしてみるのとは大変なことも楽しいこともあり、とても大きな経験になりました。今回のシドニー研修を通して得た気づき・学んだことは主に三つあります。

一つ目は人間関係の面です。私はこの研修プログラムに一人で申し込みをしたため、はじめは知り合いがほぼいない状態で、たまたま一人だけ授業で話したことがあるというような孤独な状態でした。研修前は海外に対する不安に加え、人間関係にも少し不安がありました。しかし実際研修が始まるとみんなとてもフレンドリーですぐに打ち解けることができました。また現地では日本語を学んでいるマッコーリーの学生が駅や電車の中で私たちに声をかけてくれ仲良くなれたり、バディプログラムでも積極的に話してくれたりし、輪が広がりました。これらのことから自分から話しかける積極性が大切だと言うことに気づかされました。

二つ目は宗教の違いです。私のホストファミリーはヒンドゥー教を信仰しており、玄関の前に神様の絵が描かれていたり、部屋中に神像や絵画があったり、部屋の片隅に礼拝の空間があったりなど日本では見たことのないものばかりで新鮮でした。また朝には必ず礼拝の時間があり、初日は何も知らなかったため礼拝の際に鳴らす鐘の音に驚いて目を覚ますこともありました。また食事の面でも宗教上の理由で食べられるお肉の種類が決まっていたり、手を使って食事をしていたりなど、宗教の違いを直接感じることができました。家の近くにはキリスト教の教会があり、日曜日には礼拝の人で賑わっているのも目の当たりにし、本当にオーストラリアは多民族国家で、さまざまな宗教・文化を尊重しながら暮らしていることを実感することができました。そして大学のサークルでカトリックのサークルやイスラムのサークルなど、宗教関係のサークルが存在しているのも無宗教の人が多い日本では見たことが無かったので驚きました。

三つ目は英語です。オーストラリアは歴史上、イギリス英語がよく使われていることを実感しました。特にゴミ箱のことをビンと呼ぶのは全く知らなかったもので、ファミリーに初め言われたときは瓶のことかと思い、話を通じず意味が分かったときに驚きました。またクラスメートにアラブ出身の子達がいて、初めは全く彼らの英語が聞き取れず、国によって英語の癖やアクセントが違うことを痛感しました。反対に日本人同士では理解できた英語も彼らには通じないこともあり、国ごとの違いがはっきり出ていて面白かったです。

この研修は語学だけではなく、人としても成長させてくれたと感じているので本当に参加して良かったです。

